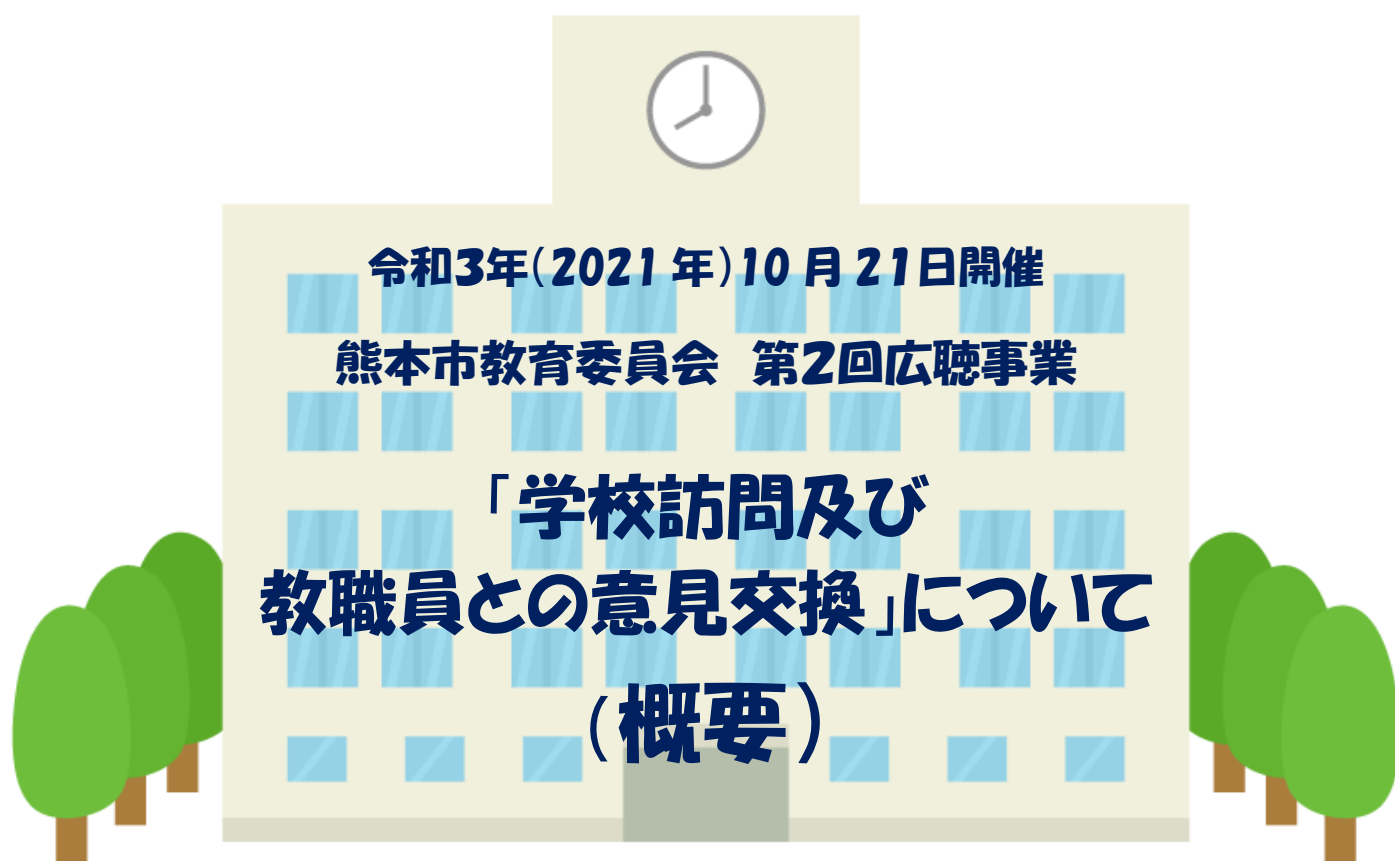


(令和3年(2021年)11月25日 教育委員会会議 自由討議)  
教育総務部 教育政策課

令和3年(2021年)11月

定例教育委員会会議 自由討議資料



令和3年(2021年)10月21日開催

熊本市教育委員会 第2回広聴事業

「学校訪問及び  
教職員との意見交換」について  
(概要)

## 1 開催概要

- ① 日時 令和3年(2021年)10月21日(木)
- ② 訪問先 託麻東小学校、二岡中学校
- ③ 日程 (1) 小中一貫教育について(事務局・訪問校説明)  
(2) 託麻東小学校 4時間目授業視察  
(3) 二岡中学校 5時間目授業視察  
(4) 託麻東小学校・二岡中学校 教職員との意見交換

## 2 訪問先について

今回、訪問した託麻東小学校・二岡中学校は、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す「小中一貫校」。その取組として、小中学校であいさつ、うなずき、話し方など人と関わる基礎を学ぶトレーニング、小学校高学年で教科担任制などが実施されている。

## 3 授業視察の概要

### ① 託麻東小学校(4時間目授業視察)

6年1組 算数「式の有用性」(指導:6年5組担任 阿部教諭)を中心に視察。  
その他、学校全体の授業の様子を視察。



### ② 二岡中学校(5時間目授業視察)

1年3組 理科「(光の性質)レンズのはたらき」(指導:山代教諭)を中心に視察。  
その他、学校全体の授業の様子を視察。



## 4 教職員との意見交換（概要）

参加者：遠藤教育長、泉教育委員、出川教育委員、小屋松教育委員、西山教育委員  
二岡中学校 教職員 5名、託麻東小学校 教職員 5名

### 質問 I

#### ICTを活用した授業を実施するうえでの苦労やその改善策について（小屋松委員）

### 導入時

（託麻東小学校 A 教諭）

最初、教員の ICT に対する差に非常に困った。子どもへの配布前に研修をしたかったが、配布とともに ICT の活用が始まったため、それから多く研修に参加し、校内研修でもタブレットの研修を取り入れ、その差をなくすよう努力した。今回オンライン授業があったことで、全員が ICT を使用せざるを得ない状況になり、全体的に活用できるようになった。現在は先生同士で交流したり、学年で教材を共有するなどしている。

（問：小屋松委員）

自分の年齢からするとタブレットは敷居が高いと感じ、ベテランの先生方にもそういう方がいらっしゃると思う。頑張っただけで覚えているのか。

（答：託麻東小学校 A 教諭）

苦手な先生が得意な先生に聞いたり、お互いに教え合ったりして活用を進めている。

（問：遠藤教育長）

小学校は中学校より 1 年早く導入しているが、それでも今年のオンライン授業の際、うまく使えない先生がいたか。

（答：託麻東小学校 A 教諭）

差があった。ロイロノートを主に使っていたが、他のアプリが良いという意見も受けた。

（問：遠藤教育長）

中学校は小学校より 1 年遅く導入されたが、やはり今回のオンライン授業を機に一斉に使えるようになった感じだったか。

（答：二岡中学校 B 教諭）

この間オンライン授業をせざるを得ない状況になったときに、皆で取り組み、分からないところを教え合った。大変だったが、それで皆が使えるようになり、今はその延長で授業もパワーポイントを作ってロイロノートに落とすような形でかなり活発化してきたと思う。

昨年度、一斉にドリルパーク、未来シードを導入しようとした時期があったが、一斉に行ったところ回線が繋がらなくなり、その苦い経験からドリルパークや未来シードの使用には少し抵抗感がある。

## 児童生徒の活用状況

(問：西山委員)

中学校のプログラミングの授業を見たが、非常に楽しそうにタブレットを使っている生徒もいれば、手が止まっている生徒も見かけた。タブレットを使った授業についていけない生徒もいるのか。

(答：二岡中学校B教諭)

個別指導が必要な生徒がクラスに数名いる。

(問：西山委員)

個別指導は手間がかかると思うが、その負担感はどうか。

(答：二岡中学校B教諭)

そこまで手が回らず、早く出しなさいと言って終わっている現状である。

(問：小屋松委員)

タブレットが使えない子は、他の子と差がつくので、フォローはどうしたらいいか。

(答：二岡中学校C教諭)

まず誰かの手助けが必要と思うので、生徒指導主事として学校全体を見て回る際に、ついていけない生徒に声をかけている。周囲の生徒たちも教えてくれている。それでも難しい場合もあり、専門知識を持った人に入っていただくのが一番だと思う。

(西山委員)

孤立している児童生徒が人にも聞けず、授業についていけなくなることが心配である。

(遠藤教育長)

小学校から使っていれば使えると思うが、中学校になってからだと難しいかもしれない。

(答：託麻東小学校D教諭)

小学生は使いこなしていると思う。今日の授業でも使ったが、全員自分でできていた。大人より子どもは覚えるのが早い。

(西山委員)

小学校ではみんな楽しそうに上手に使っていたが、中学校ではできない生徒がいるという印象を持った。

(小屋松委員)

タブレットを使い始めて2年。完璧に使いこなすのは難しいが、この過渡期に苦手な子どものフォローにマンパワーが必要だと思う。

## 音楽での活用

(託麻東小学校E教諭)

夏にICTの講師を呼んで先生対象の夏期講習会を開いた。それまでICT活用時に著作権が問題になることがあったが、講習会で熊本市では著作権の許諾を受けていると教えてもらい、大変嬉しかった。現在音楽では、それを上手に利用してリコーダーに関する動画

を作ったり、先生方自作の教材を共有したりしてICTを活用しているところである。

## 現時点の問題点

(二岡中学校C教諭)

最近までオンライン授業をする際、一斉に回線が落ちる現象があり、調べた結果、このエリアにはドコモの電波が入りにくいことがわかった。ドコモに対応してもらい、しっかり使えるようになった。このようなことに関する対策をしていただくとありがたい。

また、最近iPadの老朽化を心配している。使用開始から2年過ぎてきており、充電が全くできない、充電がすぐなくなるので画面の色を暗くして使っている生徒もいる。今後の対応はどのようになるのか。タブレットに一気に同じような不具合が起きる可能性も考えられる。

(遠藤教育長)

契約の期間中の故障は無料交換になっているが、交換が多いと交換する間の予備機が不足することも考えられる。

(二岡中学校B教諭)

夏休み中に何人かの生徒がタブレットを落とし画面が割れ、無償交換してもらったが、交換に1ヶ月以上を要した。授業のほとんどでタブレットを活用しており、交換の期間、その生徒たちはロイロ上でのやり取りに参加できなかった。予備機は既になく、もう少し配布していただくと助かる。

(遠藤教育長)

予備機はない状況か。

(森江教育次長)

想定外に予備機が必要となっており、教育センターでも予備機の確保に懸命に対応している状況。今後予備機を増やす方向である。

(託麻東小学校A教諭)

現在は学校の規模に関係なく、予備機は各校2台ずつである。学校規模に合わせて予備機を配当いただきたい。本校の場合、学年に2台は確保したい。

(森江教育次長)

学校規模で配布するのが理想であるが、まずは各学校に2台でスタートしている。見直しは必要であり検討していく。

## 質問 2

### 特別支援教育の実態や問題点等について（西山教育委員）

#### 小学校

（託麻東小学校 F 教諭）

現在課題と感じているのは、ここ数年、支援を必要とする児童が急速に増えていること。入学前の相談は倍増（年間 6 件⇒ 12 件）、特別支援学級の在籍数が、5 年前は 13 人だったが、現在 35 人。1 小 1 中なので、中学校も同じように増加傾向。

通常学級にも支援を必要とする児童が増えており、それに対し職員が不足している。全体の子どもの数も増えて教室数が足りず、特別支援学級も 2 クラスで 1 つの教室を使用せざるを得ない状態である。このような状態で交流学級での学習の支援も難しい。この悪循環は熊本市全体に見られる傾向ではないか。

以前は加配等も含めて児童 9 人に担任 3 人の学級が 2 学級あったが、現在児童 12 名でも教員が増えない厳しい状況である。改善すれば、以前のように手厚い支援ができる可能性はある。現在、職員は精いっぱい頑張っているので、数が増えていることに対応するためには、保護者、教育委員会などの行政や福祉も含めて全体で取り組み、子どもたちが安心して学校で過ごす環境づくりができればと考えている。

#### 中学校

（二岡中学校 G 教諭）

中学校での課題もやはり人数が増え、支援が手厚くできなくなること。

小中一貫で良い点は、小学校から中学校に上がる際、支援のやり取りがやりやすいこと。子どもたちはほぼ同じメンバーで、関係性も出来上がっている状態で 1 年生がスタートし、子どもたちのストレスは軽減されると思う。先生方とも 1 校だけに電話すれば、相談でき連携しやすい。

## 質問 3

### 不登校の実態と対策について（西山教育委員）

#### 小学校

（託麻東小学校 H 教諭）

1, 200 人近くいる児童のうち、現時点で長期欠席（年間 30 日以上欠席）の児童が 12 名、長期欠席傾向（年間 20 日以上欠席）の児童が 4 名。各学年に 2 名～3 名の不登校の児童がいる。それぞれの担任を中心に児童への学習指導等の働きかけを行っている。不登校の要因はそれぞれ違い、個々の状況等に合わせ担任の先生方が頑張っているという実情である。

長期欠席・長期欠席傾向の児童とは別に、通常学級で学ぶのが難しい児童が数名あり、支援室というところで学習を行っている。通常学級でも特別支援学級でもないため、教頭や専科の職員の空き時間でサポートを行っている。

## 中学校

(二岡中学校C教諭)

9月末現在で、長期欠席8名、長期欠席傾向10名となっている。

理由は、無気力・不安が11名と一番多く、病気、友人関係をめぐる問題、家庭の生活環境の急激な変化が2名ずつ、生活のリズムの乱れが1名となっている。一番多い無気力・不安の中で、ここ数年増えてきたのが、人が怖いというもの。友達関係等でもなく、中にはスーパーマーケットに行くのも怖い生徒もいて、保護者に医療機関との連携も促している。主に担任の先生の家来訪問を中心に対応しているが、フリースクール等の紹介も行っている。

小中連携を活用した取組としては、小学校での学校生活の流れを聞き、例えば掃除の流れを同じにするなど、できるだけ生活環境が変わらないようにし、いわゆる中1ギャップを少なくする工夫をしている。子どもたちも中学校に入ったら最初は頑張るが、2学期半ばになると休みがちになる。そういう中で今後ともリモート授業は大変役立ってくると思う。

## 質問4

### 小中連携による中1ギャップや不登校等への対応について（泉委員）

(二岡中学校C教諭)

中学校で問題行動が起きたとき、すぐに小学校に出向くことができ、家庭的な背景やこれまでの指導等を聞きやすい環境である。話を聞いておくと、生徒とも話しやすい。

また、小学校から中学校生活にスムーズに入れるように、掃除での拭き方や授業の開始の仕方等について、小学校と話し合って統一している。

(問：泉教育委員)

新型コロナウイルス感染症の影響による不登校が増えている印象があるが、どうか。

(答：二岡中学校B教諭)

2学期はじめのオンライン授業後、学校に来ることができない生徒が1学年に3人ほどいる。

(泉教育委員)

今後どのように対応するか課題である。

(答：二岡中学校B教諭)

今は担任の先生に任せるような状態になっている。

(問：遠藤教育長)

コロナが不安で休んだ生徒がそのまま不登校になることも考えられる。不登校の生徒の進路はどのようになっているか。



(答：二岡中学校C教諭)

本校の不登校の生徒の進路は、サポート校に進む生徒が多いという印象。普通高校に進んだ後にサポート校に移った生徒もいると聞いている。

(遠藤教育長)

今後は通信制も増え、進路も多様化すると思うが、その先の自立へのサポートが大事だと考える。

## 質問5

### 教科担任制について (出川教育委員)

昨年度小学校で実施された教科担任制に関するアンケートで、「評価がしやすくなった」との回答は少なかったと聞いたが、教科担任制になっての難しさなどについて聞きたい。

(託麻東小学校D教諭)

「教科担任制」について先生方に聞いたメリットとデメリットについてお伝えする。

【メリット】

- ・教材研究がしっかりでき、こだわりをもった授業ができる
- ・学年全体の児童の顔と名前がたくさんわかるようになる
- ・子どもへのアンケートで「先生たちと仲よくなれたことが一番うれしかった」という意見が一番多かった。

【デメリット】

- ・担任するクラスの児童と関わる時間が4分の1程度になった。クラスの変化がつかみにくく、問題が起きた際にすぐに対応することが難しい。
- ・教職員の授業の持ち時間に差が生じる。持ち時間の少ない職員で保護者向けのお便りを作成するなどの対応している。

評価については教科によって違うと思われる。算数、社会等テストで評価ができるもの評価しやすいが、図工や家庭科等の技能教科について一定の評価基準はなく、担任の判断になるため難しいと思われる。

## 質問6

### ソーシャルスキルトレーニング (以下、「SST」。) の導入による変化について

(出川教育委員)

(二岡中学校B教諭)

本校に来て7年目になるが、当初は生徒と教師の関係性が良好といえず、授業もままならない状態だった。それが2年ぐらい続いたが、小学校でSSTを取り入れられた後に入って



来た1年生が全く違っていた。先生に対し何か言おうと構えている生徒は全くいなかった。また言葉遣いが丁寧で、乱暴な行動をする生徒でもきちんと敬語が使えた。それを実感し、ぜひ中学校でも続けて取り入れようと継続しているところである。生徒たちの自尊感情を高められる活動であり、自分がそこにいてもいいという安心感をつくるような活動であると思う。

(託麻東小学校D教諭)

小学校はSSTを含むグループアプローチに取り組んで5年目になる。当初、ペアを組んで活動をする際、この人とは話したくないといった態度も見られたが、うなづくことだけを意識したペア活動を続けるうちに、けんか等がすごく減ったと感じている。学校全体を見ても、児童の表情も明るくなり、先生に対し反抗する児童は全くなく、大人に対しても温かく、お互いに温かく見守れるようになった。先生たちの意識も変わり、以前は児童を怒っていた時期もあったが、今はできることをしっかり認め、傾聴する姿勢を大事にするようになった。グループアプローチが子ども同士だけではなく、先生の児童への関わり方も変えてきている。温かい雰囲気の仕事をしている。

(問：遠藤教育長)

小学校でSSTを行った子どもが中学校に入ってきたら急に変わったということだが、その学年の子どもは6年生になって始めたということか。また、先生にも変化はあったか。

(答：託麻東小学校D教諭)

そうである。6年生の2学期の途中から半年間くらい、週に1回くらい行った。

その年に生徒指導の研究発表校に選ばれていて、名城大の曾山教授をお招きして、ソーシャルスキル、グループアプローチを学んだ。最初は照れてなかなかできなかったが、どんどんなじんでいき、話を聞く姿勢まで変わり、いい顔で卒業していった。

(答：二岡中学校C教諭)

SSTを学んだ1年生がうんうんと言って聞いてくれて、こちらも安心感を覚えた。私たち教員も優しい気持ちで接することができると感じた。

## 学校から I

### 部活動について

(二岡中学校I教諭)

本校で部活動の主任をしている。中学校で部活は教育活動の一つであるが、全国や熊本市でも、新たな部活動の体制の検討がなされていると思う。また、働き方改革が進められる中、部活動指導を負担と感じている職員は多いと思う。ただ「不要」と言うことはできないのではないかと感じている。生徒たちが一生懸命頑張る、3年、2年、1年という縦のつながりを経験する活動でもあり、教育効果があると思う。

勤務時間の削減と教育効果をてんびんにかけ、持続可能な運営を考えると、私たちの勤務

時間の範囲で部活動の時間を組み込むことができればと考える。

(遠藤教育長)

部活動について、先生方にアンケートを取ったところ、顧問を希望する人、しない人は、半々くらいだった。現在、他の中学校で、働き方改革として、部活動の時間を1日90分と決め、できるだけ勤務時間内で実施している学校もある。現在熊本市で考えている方法は、希望する人に勤務時間外でお金を払って部活動の指導をしてもらうというもの。そうすると、どの学校に異動しても同じ学校の部活動の指導ができる。例えば先生が二岡中学校から異動しても二岡中学校の部活動の指導をずっとできる。それにも効果があると思う。

一方、国は部活動を地域に移行し、学校から切り離そうと考えているようであり、そうすると熊本市だけ部活動を学校で行うのは難しいかもしれない。しかし、私たちの基本的な考え方としては、希望する人が指導できるようにし、指導者はお金をもらう方がいいというもの。また、今のご提案のとおり、お金は要らないから勤務時間内に収めて行うという方法もあるのかもしれない。

いずれにしても、半分の人には部活動をやりたくないという現状があり、また、今後教員の志望者をできるだけ増やさなければならぬ状況にあり、希望しない人はやらなくても大丈夫という仕組みは作らなければならない。様々な選択肢を検討している。

また、学校の部活動として残しておく都合がいいことがある。教育委員会からは、部活動の指針をつくって練習時間とか練習日等がある程度決められるが、社会体育になると、毎日3時間も4時間も練習して土日もない状態になった場合でも、駄目だと言えない。子どもを守る意味で学校の部活動としておく方がいいと考える。

## 学校から2

### 保健室の実情について

(二岡中学校 J 教諭)

保健室の実情について知っていただきたい。本校での勤務は6年目であるが、当初は学校全体が落ち着いておらず、1日に35人ぐらいの来室があった。毎日へとへとだったが、託麻東小は今でも70人を超える日もあるという。保健室経営も大変だと感じる中、新型コロナの対応が加わり、保健室内でも対応に苦慮している。発熱などの症状がある生徒は、できるだけ早く早退をさせるが、早退までに待機する部屋はなく保健室内をパーティションで区切るしかない。昨年度はスクールサポートスタッフの導入があり、学校の消毒作業や早退する子どもの見守りもお願いし、大変助けていただいた。他にも保健室のサポートを必要としている学校もあると思う。

(問：西山委員)

保健室に来る生徒の中で体調不良ではなく精神的な問題で自分の学級に入れずに保健室へ登校するケースもあるのか。いるとすれば何人くらいで、どなたが対応するのか。

(答：二岡中学校 I 教諭)

そういう生徒もいて、以前は保健室登校もあったが、今はコロナ感染症を考慮し、調理室を利用して別室登校を受けている。人数は3名ほどで、学年で対応している。

## 学校から3

### 生徒指導主事の役割及び日課について

(二岡中学校 B 教諭)

二岡中学校が以前に比べ落ち着いていったのは、1つはSST、そしてもう一つ、生徒指導主事が授業を持たずに自由に動ける状態にあることである。例えば朝から家庭でトラブルがあり機嫌の悪い状態で学校に来て授業に入れない生徒がいたとして、以前は担任が対応していたが、そこを生徒指導主事に丁寧に対応してもらっていったところ、教室の中が落ち着いて、保健室に行く生徒も減っていった。生徒指導主事の存在は大きい。担任は、8時15分の健康観察からほぼ空き時間はない状態で4時20分まで授業をし、4時半から6時半まで部活動を見る。6時半以降に、トラブルを抱えた子の対応、家庭連絡、明日の授業の準備となる。

次に、日課について。先月コロナ対策として1コマ45分の4時間授業が実施された時、子どもたちが生き生きしていた。この原因は2つある。1つは45分だから頑張れるという子どもたちの気持ちと、もう1つは昼からの時間に教師がICT等を活用し一生懸命授業作りを行ったこと。オンライン授業のあとだったこともあり、魅力ある授業につながった。この二つが関連していると思う。6時間になった途端、居眠りをする生徒が増えている状況である。そこで、例えば中日である水曜日をその日課にすると、しわ寄せになっていたことが水曜日の午後にでき、木、金と学校に行ったら、土日となる。心の余裕もあると、生徒たちのトラブルにも丁寧にできると思う。生徒のトラブル等があると、その対応ばかり考え、授業の質も低下すると感じている。長期休暇を調整するなどして、そのような働き方もあると考える。

(小屋松委員)

私の職場で水曜日は早上がりと決めている。中日にそういう日があると気分が違う。

今の先生の話を知っていると、子どもたちはいいけれど、先生たちはその時間を使ってまた何かほかのことをしようとされる。やはり先生は真面目だなどと思って話を聞いていた。先生方も水曜日は早上がりなどと決めて、早く帰れるようにし休まないといけなと思う。

(遠藤教育長)

午前中登校は本当に評判がよく、一年中これでいいのではないかという声は確かにあったが、授業時数を考えると、中学校を4年くらいにしないといけな。現在、週に3日早く帰れる日をつくっている学校もあり、色々な学校の工夫を知っていただけるような取組を考えたい。

## 質問7

### 学校の分離について（遠藤教育長）

小学校は大規模校の割に温かい雰囲気とても良かった。中学校も落ち着きがあり、小学校からの流れでうまくいっていると思うが、先生方としては学校を分けた方がいいか。

（答：託麻東小学校D教諭）

分けた方がいい。

（遠藤教育長）

この規模が続くのであれば分けてもいいと思うが、分けた途端に減り始めることがよくあり、それでは困ると思っている。

（託麻東小学校D教諭）

まず、職員室が狭い。また旅行等に行く際、規模が大きいため業者選定にも苦慮する。総合の時間に面白い企画しても、人数が多いために活動が制限されることもあり、苦しい思いをしている。

（問：遠藤教育長）

中学校から見たら、分けることで、今の小中一貫の良さがなくなるということはないか。

（答：二岡中学校I教諭）

私は本校に来て7年目になるが、1小1中の連携のしやすさがある一方、毎年子どもたちの人間関係が凝り固まっていると感じている。例えば2つの小学校から1つの中学校に上がって、新たな出会いを中学校で経験することも子どもには大事であると思う。

（問：遠藤教育長）

中学校でもどうしても1小1中の方がいいというわけではないということか。

（答：二岡中学校B教諭）

2校から来る場合、お互いに遠慮するところがあるので、最初から我を出すより、遠慮しながらのほうがかうまくいくのかなと思う。

（答：二岡中学校C教諭）

生徒指導面でいうと、子どもたちのトラブルのはずが、小学校のときにトラブルがあり、保護者の方同士がかうまくいかず、中学校に上がっても保護者の方たちの関係が現場に影響を与えることがある。1小1中だからではないかもしれないが、子どもの関係と同様に凝り固まっていると感じる。

（遠藤教育長）

将来の児童数の増減予測は難しいが、近いうちに決定しなければならないと思っている。